

A-76 天ぶら衣の軽さの評価について

京都女大家政 ○岡部 巍 松原 生子 太田 馨

目的 天ぶら衣は軽く揚がるのがよいといわれているが、その評価は殆んど官能的な手段にたよってきた。そこで今回、天ぶら衣の軽さを客観的に測定する方法を試み、材料配合の異なる衣をつくり、官能的な評価と対応について検討した。

方法 材料は (a)小麦粉+水, (b)小麦粉+水+重曹, (c)小麦粉+水+B.P., (d)小麦粉+水+卵, (e)小麦粉+水+重曹+卵, (f)市販天ぶら粉A, (g)市販天ぶら粉Bの8種類を用いた。(b)~(e)は従来の研究報告で軽く揚がるといわれている配合である。材料を混和後スポイトで2ml吸い上げ、180℃の揚油の中に強く落とし込み3分揚げて試料片を作成し、咀しゃく形の測定器を用いて次のように試料片のテクスチャーを測定した。試料台上に中空円筒をおき、その上に試料片をのせて1回咀しゃくし、記録紙上の咀しゃく曲線から硬さ[H], もろさ[F], 柔軟性[T]などの特性値を求め、考察を行なった。

結果 官能的な評価では、軽いと感じられるものから、(h), (f), (e), (g), (d), (c), (b), (a)の順で、軽い食感の衣は客観的な測定で特性値が、①[H] 300~400g, ②[F] 300~400g, ③[T] 0.3秒, $[F/H \times 100] > 90$ の四つの条件を満たすものであった。客観的な評価では軽いものから (f), (h), (e), (g), (d), (b), (c), (a)の順になり、官能的な評価とはほぼ同じような傾向を示すことが認められ、これらの特性値を総合すれば、天ぶら衣の軽さの指標とすることができると思われる。